

政治のたてなおし

紀州（今の和歌山県）の殿様が江戸の将軍になる



徳川吉宗

八代将軍（米将軍とも呼ばれる）をつとめました。名君のほまれ高く「享保の改革」を断行しました。服装は質素で、粗食（一汁三菜）の生活をおしました。

江戸時代も半ばごろになると、幕府は、大変な財政難に陥っていました。

これは、戦いがなくなって、武士の心がゆるんできて、ぜいたくになり、はなやかな服装をしたり、遊ぶことに気をとられるようになってからです。

その時、登場したのが、**徳川吉宗**（江戸中興の祖）です。

吉宗は、家康が幕府を開いたころのように、世の中をひきしめることにしました。

無駄な費用を使わないで、質素な生活をすることを命じました。
（倅約令）

財政をたてなおすために、大名達から幕府に米をおさめさせました。

（上げ米の制）

手足となって働いてくれる有能な役人の登用をこころがけました。

（人材の登用）

大岡越前守忠相



秀才のほまれ高い大岡忠相の抜擢

若いころから優秀との評判が高く、とんとん拍子に出世し、三十六歳で山田奉行になりました。そのころ、山田領の農民と吉宗の治める紀伊藩の農民とで争いが絶えませんでした。それまで、大藩の紀伊藩に遠慮して公正な判決を下す奉行はいませんでした。忠相が奉行になると、大藩をかさにきて、ごりおしをした紀伊藩の農民三名を打ち首にしてしまいました。その判決の公正さと決断に吉宗はいたく感心し、忠相を抜擢したといわれています。

その中で、有名なのが大岡忠相です。

大岡忠相は、筋道の通った公平な裁判（大岡裁き）を行ったので、名奉行と仰がれました。

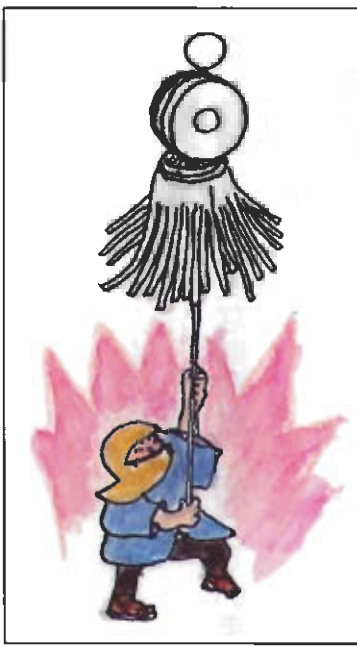
忠相は、裁判だけでなく、「物価の安定」にも力を注ぎました。また、貧しい人達や身寄りのない者達のために、病気の治療や面倒をみました。（小石川治療院）



本人に近いとされる肖像画

江戸の防火対策

忠相は、大火事がたびたび起こった江戸の町を火災から守るために、瓦屋根や土蔵造りなどを奨励しました。また、武士が主に行っていた火消しに加えて、新たに町人主体の火消しを組織しました。（江戸町火消し）



① 十代から二十代



② 三十代から四十代



③ 五十代から六十代



吉宗は、「享保きやうほの改革」の最も重要な事業である新田開発を強力に進めるため、さらにすごい人を呼び寄せました。

土木技術の天才、井沢弥惣兵衛為永です。

さて、天才 井沢弥惣兵衛為永は何番でしょう？。

新田開発

荒れ野や沼地、低い土地などを開墾かいたんして新しい田畑を拓やす事業。しかし、田を開いても水がなければ、水田農業はできません。それで、用水もあわせて引く必要があります。



田には
水が
必要です

おわかりになりましたか？

③が正解です。

天才といっているので若い人と思ったのではないのでしょうか。



それでは、弥惣兵衛が吉宗將軍に抜擢され、見沼代用水を造るまでの
お話を紹介しましょう。

黒沢山天狗の申し子

承応三年（一六五四）、紀伊の国那賀郡野上荘溝口村（和歌山県海南市）井沢弥太夫の長子として生まれたとされていますが、他にも説があります。弥惣兵衛は幼いころから学問が好きで、特に算術が得意でした。

成長と共に、その才能にみがかがかり、特に、土木技術に優れた手腕を発揮しました。村人は溝口村にある黒沢山の天狗様から秘伝を授かったのだとわさして、その高い技術をほめたたえました。

